

—関連施設だより—

静岡県東部の急性期基幹病院として

梅本 琢也

独立行政法人国立病院機構静岡医療センター

Acute General Hospital in the East Area of Shizuoka Prefecture

Takuya Umemoto

National Hospital Organization, Shizuoka Medical Center

独立行政法人国立病院機構静岡医療センターは静岡県駿東郡清水町にあり、JR三島駅または東名高速沼津インターからそれぞれ車で15分ほどの距離です。富士山の湧水を水源とし名水百選の柿田川に近く、病院からは富士山がきれいに見えます。大正8年陸軍病院として創設された国立三島病院と戸塚海軍病院沼津分院として発足した国立沼津病院が統合し、国立東静岡病院となったのが昭和42年です。平成16年国立病院が独立行政法人に移行した際に「静岡医療センター」に改称しました。その後、新外来診療棟・新病棟の建築を経て平成21年4月に全面更新築が完了しました。

許可病床数は一般450床（集中治療室10床、HCU8床）でDPC対象病院であり地域医療支援病院、臨床研修指定病院、災害拠点病院等の指定を受けています。平成27年度の平均外来患者数520.6名、平均入院患者数285.6名、平均在院日数17.3日で、救急車搬入1,971件、年間手術数2,590件で紹介率66.2%、逆紹介率47.9%でした。附属看護学校があり、なんとか7対1入院基本料の必要看護師数を確保できていますが、産休・育休も多く離職もあり余裕はありません。常勤医師は45名、研修医3名です。日本医科大学からは循環器科6名と小児科3名の計9名を派遣頂いています。当院は国立病院機構のなかでも2病院だけ、という常勤医師の過半数が特定の大学から派遣されていない施設で、現在は10近くの大学との関連があります。そのため各診療科の垣根が低くコミュニケーションも良好です。また臨床研究部を設置しており、国立病院機構の共同研究・治験を中心に臨床研究・治験の支援を行っています。2015年の治験等受託金額は3,945万円、学会発表が国内121件、国際学会6件、論文は邦文16編、英語25編でした。

「私たちは生命を大切に、社会から信頼されよるこばれる高度で適切な医療を提供します」を基本理念とし、がん・循環器・救急・総合診療を4本柱としています。特に「循環器」は循環器科7名、心臓血管外科5名で24時間



365日急患に対応しています。循環器科は虚血性心疾患のカテーテルインターベンションはもちろん、不整脈の電気生理学的検査やアブレーション、埋め込み型除細動器移植術や両心室ペースメーカー移植術も積極的に行っています。心臓血管外科は成人心臓血管疾患全般を対象とし、特に大動脈瘤破裂や急性大動脈解離などの緊急手術では地域から高い信頼を得ています。

「医療安全」「感染対策」「教育」を病院機能の基本と考え、専従看護師を配置して院内の一室に集め「クオリティ・コントロール・センター」と名付けています。多職種によるチーム医療はますます重要になります。現在は感染管理・がん性疼痛看護・集中ケア・皮膚排泄ケアの各認定看護師を中心とした院内のチーム医療活動があり、ナースプラクティショナー（JNP）2名が研修中です。

静岡県東部では以前から東海大地震の可能性と最近富士山の噴火までも危惧されています。当院も災害拠点病院としてDMAT3チームを筆頭に災害対応力の増強を図ろうとしていますが、対策はなかなか進みません。災害に備えるには十分過ぎることはなく、今後も努力を続けていきます。

最大の課題は地方中核病院の典型的な問題である医師不足です。静岡県は人口10万人あたりの医師数が全国ワースト5に入っていますが、その少ない医師も政令指定都市の浜松市・静岡市を中心とした西部・中部に集中しており、当院の位置する東部ではさらに数が少なくなっています。当院では循環器科以外の内科医が非常に少なく、病院全体の機能維持に支障を来しています。病院経営の点からはもちろん、医師負担軽減のためにも一刻も早く解消したいのですが非常に困難です。新専門医制度をきっかけに議論も起きていますが、日本全体としての改革を待つわけにもいきません。医師が集まりたい病院を目指して模索しています。

平成29年10月には富士宮市にある同じ国立病院機構の静岡富士病院と統合し、100床を重症心身障害・神経難病対応の慢性期病床に変換し、急性期350床で再出発する予定です。現在新病棟や駐車場・職員宿舎の新築工事が進行中です。新しい時代にも耐えられる病院、地域から選ばれる病院になれるべく努力を続けますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

（受付：2016年8月23日）